

2015.12.17：都市整備建設委員会 本文

○菅原正和委員 私からは、先日開業しました地下鉄薬師堂駅に関してちょっとお聞きしたいことがあります、質問させていただきます。

実は、バスプールがある場所、一番入り口なんですけれども、入り口に入るところに段差があります。この段差は何のためにあるかということで、道路の水があふれた場合に地下鉄の下に水が落ちないように防水のためにあるんだよという説明はまず受けたんですが、その高さの問題がまず一つあります。

通常これでしたら10センチぐらいの高さを見込んで設計をしていたということなんですけれども、薬師堂に行きますと、そこの高さが5センチか6センチぐらいしかありません。これが一番人間がつまずく高さなんです。その指摘をしまして、当局のほうでカラーコーンと、ここに段差がありますということで注意喚起のほうはしていただきました。

その後いろいろ調べましたら、図面では、実はここはフラットの設計だったんです。この段差がない設計でここができ上がるはずだったのに段差がついてしまった。要は駅舎を建設した側と道路側を建設した側というのが、要は東西線の建設課と南道路のほうで二つでやったわけなんですけれども、当然これをつくるに当たってお互いすり合わせをしたはずなんです、このすり合わせをうまくやっていたら当然これがフラットになったはずなんですけれども、これはなぜうまくいかなかったかということがまず1点と、それと、この5センチの高さということに関して、これを危ないという認識はなかったんでしょうか。それをちょっと聞きたいんですけれども。

○東西線建設部長 薬師堂駅の出入り口と駅前広場の路面の段差について御説明をいたします。

駅前広場に出る地下鉄の出入り口と駅前広場の路面の高さの調整につきましては、計画段階から駅前広場を整備する道路サイドと私ども地下鉄側とで調整を図ってまいりました。このうち御指摘のございました薬師堂駅前広場では、地下鉄出入り口工事が先行いたしまして、後続の駅前広場工事の現場施工の際に前面道路、南側に前面道路がございましてけれども、その歩道側との距離が少ないことが判明いたしまして、そこのすりつけ勾配が急になるということなどの理由から、やむを得ず段差を設けることとなりました。その結果、委員御指摘のとおり5センチという、なかなか歩くには難しい段差となってしまったというところでございます。

委員からお話ございましたとおり、現在は段差部に黄色と黒の安全表示テープ、注意喚起テープとカラーコーンを設置してございまして注意喚起を行っておりますけれども、これにつきましては、やはり結果としてこのような形になったということで危険であるという認識は私どもいたしておりますので、改善方法について早急に道路サイドと検討いたしまして早急な対応をしてみたいというふうに考えております。